

琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度
第1回水陸移行帯ワーキンググループ会議
議事のまとめと今後の方針

1. 議事次第

議 事 次 第	
1.	開 会
2.	挨 拶
3.	専門家グループ制度について
4.	議 事
	(1) 琵琶湖の現状
	(2) 瀬田川洗堰の試験操作と魚類の産卵・仔稚魚調査
	(3) 流入河川流動調査
	(4) ニゴロブナの生活史モデルについて
	(5) その他
5.	閉 会

日時 平成16年3月30日(火)9:30～12:00
場所 ぱるるプラザ京都 6階第6会議室

2. 出席者

<p>専門家グループ：浅野助教授、嘉田教授、實教授、戸田元青年会長、西野統括研究員 琵琶湖河川事務所：児玉、酒井、春木 大戸川ダム工事事務所：脇坂 水資源機構関西支社丹生ダム建設所：原、星野 事務局：(財)河川環境管理財団(習田、瀬戸口)</p>

3. 使用資料

- 資料 - 1：専門家グループ制度について
- 資料 - 2：琵琶湖の現状
- 資料 - 3：平成15年の調査結果
- 資料 - 4：平成16年の調査計画
- 資料 - 5：流入河川流動調査
- 資料 - 6：ニゴロブナ生活史モデルについて

4. 議事のまとめ

項 目	1. 専門家グループ制度について
意見のまとめ	● 水陸移行帯 WG のチーフは嘉田教授にお願いしたい。
今後の方針、等	・ 水陸移行帯WGのチーフは嘉田教授に決定。

項 目	2. 琵琶湖の現状について
意見のまとめ	(特になし)
今後の方針、等	・ 琵琶湖の治水・利水等の現状については、共通の認識を持つためにも、後日、各委員に説明する。

項目	3. 平成15年仔稚魚調査の調査結果について
意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成15年度の仔稚魚調査結果は重要であるが、魚だけの問題ではないことを認識しておくべき。 ● 過去に同じような調査報告があれば比較する。
今後の方針、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稚魚調査については遊磨教授が90年代初め「山ノ下湾」で実施しているため、結果についてアドバイスを受ける。

項目	4. 平成16年の調査計画
意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年の水位操作で+10cmを維持することで産卵や水不足等に影響はないのか。産卵への影響はヨシ帯の存在する水深についてのデータより影響がないと見ている。また、水不足については今年の水位管理は、過去に最も厳しい気象状況の時をシミュレートしており、厳しい条件で考えている。 ● 人為操作による影響と、気象条件による影響が入り複雑になるが、説明を最終的にはできるようにする必要はある。 ● 地区名を表記するときのレベルを合わせる。例えば、海老江は湖北町海老江。
今後の方針、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成16年度の調査計画について了承を得られた。 ・ 地区名の表示を正確な地先とする。

項目	5. 流入河川流動調査
意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● なぜこのワーキングの課題かということ、水陸移行帯の水位の問題が、ダム運用（琵琶湖への水の補給）により可能かとの検討を進めているためである。
今後の方針、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の意見を聞きながら進めていく。

項目	6. ニゴロブナの生活史モデルについて
意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● このモデルはプランクトンまではある程度良い結果が出ると思うが、それより細くなると難しい。意志を持って動くものと、運動法則にそって動くものでは考え方を考える必要がある。漁獲量については経済的な観点から検討が必要である。 ● このモデルから、資源量の変動グラフを作り、漁獲量は漁師の今までの生活から得られる感覚で、その結果を精査するというのはどうか。 ● 専門家（案）には、京都学園大学の資源経済学の内藤助教授を推薦する。
今後の方針、等	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザー会議に、本モデルを指導して頂く専門家の人選を議題として挙げる。

項目	7. その他
意見のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 水陸移行帯 WG は年内に結論を出す。 ● 本会議の内容は後日、本日欠席の委員に個別で説明に行く。 ● このワーキングは生の声を聞くためにも、呼称を「先生」や「委員」ではなく「さん」としたい。 ● 平成16年度の産卵調査には、調査の状況を見てもらうためにも、委員の参加をお願いする。 ● 新旭町針江で子供たちが現地調査をしており、そこでも平成16年度の産卵調査について、参加の呼びかけをお願いしたい。